樹里安だより

ジュリアン

70 The 70th Anniversary of Kawaguchi City
これまでも、これからも、「ありがとう」が、基本です。

2003年1月
Vol.12

安行八景（その七）

平岡坂ケヤキ並木

170～80年ほど前に地元の平岡氏によって、防風林として旧草加道沿いに植えられ、今も10本ほどのケヤキが残る。道行く人に快い存在だ。

KAWAGUCHI
きらり川口 緑いっぱい

川口市保存樹木を訪ねて　その12

照妙寺のフジ

【川口市西青木3-6-32】

「今年の花はいつもより早かったですよ！」。フジの写真を撮っていると、通りがかりのおばさんが、わざわざ自転車を降りて教えてくれた。川口市立幸並中学校と道を隔てた対面に照妙寺はある。近くを産業道路が走る。全くの市街地である。平成14年４月18日、既に花の盛りは越えていたが、花柄は地面を埋め尽くしていた。境内はさほど広くはないが、手入れのいきとどいた植木は見事。

保存樹木のフジは、門を入ってすぐ右側にあり、平成12年９月１日指定、第42号である。

地際から立ち上がった幹は古木然（こぼくぜん）としていて、しかも昇り竜のように捩（よじ）れ、老木を思わせる。

燦々（さんさん）と春の光を浴び、ゆったりとした心持ちは満足感一杯。お寺という空間が一種独特の空気を醸し出していた。

フジの文化史

フジは日本人がこよなく愛した植物のひとつです。

万葉集にも多く読まれています。

日本、朝鮮、中国、アメリカに分布しています。日本にはフジとヤマフジの二種類が自生しています。

藤色、藤紫はフジの花の薄紫色を指し、日本人が高貴の色として崇めました。

フジの観賞として、万葉集や源氏物語、枕草子、等々には、野山の自然に立つ松の木に絡んだ、フジの垂れ下がる花を「いとおもしろし」と表現しています。また、庭植えとして棚仕立てで愛でてもいます。

フジの付く言葉として主なものは、

藤蔓（フジヅル）、藤縄（フジナワ）、藤布（フジヌノ）、藤衣（ふじごろも）、藤の御衣（フジノオンゾ）、藤細工（フジザイク）、藤行李（ふじごうり）、藤織（フジオリ）、藤紙（フジガミ）、藤笠（フジガサ）などで、フジの蔓や繊維、皮を題材として出来た言葉です。藤娘（フジムスメ）、藤の丸（フジノマル）、藤波・藤浪（フジナミ）などは、フジの花を題材にして出来た言葉です。

上がり藤（アガリフジ）、下がり藤（サガリフジ）はフジの花を紋所に使用した言葉です。

このように生活に密接に係わっていたことが言葉の上からも浮かび上がってきます。

カイ【楷】

人類と植物の係わりは、有史以前から衣食住に代表されるように、切っても切れない間柄です。もう少し絞って、一個人と植物の繋がりも、古今東西決してすくなくありません。

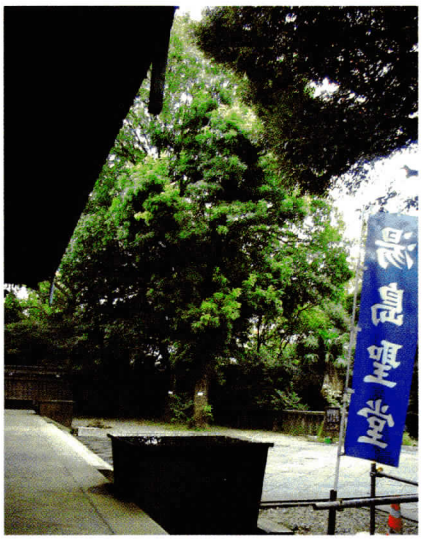
例えば、菅原道真と梅、牧野富太郎とスエコザサ、ニュートンとリンゴノキ、メンデルとエンドウマメ、その他があります。今回取り上げたカイもそのうちの一つです。

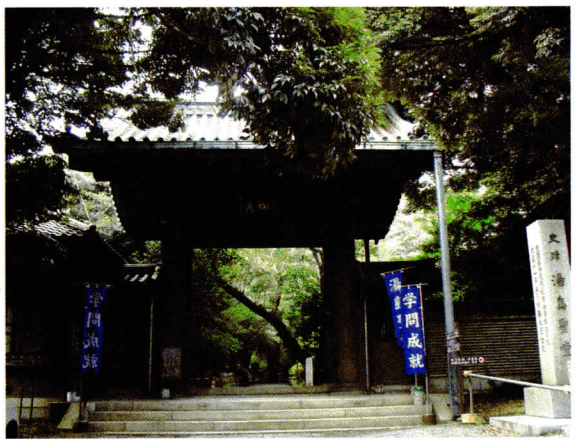
儒教の祖『孔子』の墓域にカイが植えられています。孔子没後、弟子の１人子貢が植えたと伝えられています。中国のほぼ全土に原産しますが、孔子廟のカイが最も有名であり、この樹を「孔子の木」「学問の木」「開樹」などと呼ぶようになりました。

台湾、フィリピンにも産するウルシ科の植物です。15ｍを越す落葉喬木で雌雄異株、黄葉が大変美しい植物です。トネリバハゼノキの別名があります。

我が国に導入されたのは、比較的新しく大正４年(1915)の事で、当初は孔子や儒教に関係する所に植えられました。いわば学問のシンボル樹として捉(とら)え導入したのでしょう。

近隣で大木として見られるのは、東京にある湯島聖堂境内（５～６本）とさいたま市北浦和公園内の旧制浦和高等学校跡地の１本です。





★湯島聖堂にて【楷の説明版による】

楷樹の由来

楷　かい／学名　とねりばはぜのき／うるし科

PISTACIA CHINENSIS. BUNGE

楷は曲阜にある孔子の墓所に植えられている名木で初め子貢が植えたと伝えられ今日まで植えつがれてきている。枝や葉が整然としているので書道でいう楷書の語源ともなったといわれている。

わが国に渡来したのは、大正四年林学博士白澤保美氏が曲阜から種子を持ち帰り東京目黒の農商務省林業試験場で苗に仕立てたのが最初である。これらの苗は、当聖廟を初め儒学に関係深い所に領ち植えられた。その後も数氏が持ち帰って苗を作ったが性来雌雄異株であるうえ花が咲くまでに三十年位もかかるためわが国で種子を得ることはできなかったが幸にして数年前から二三箇所で結実を見るに至ったので今後は次第に孫苗がふえていくと思われる。

中国では殆んど全土に生育し、黄蓮木・黄兒茶その他の別名も多く、秋の黄葉が美しいという。

台湾では、爛心木と呼ばれている。牧野富太郎博士は、これに孔子木と命名された。

孔子と楷とは離すことができないものとなっているが特に当廟にあるものは曲阜の樹の正子に当る聖人であることをここに記して伝える

昭和四十四年秋月

★北浦和公園にて【楷の説明版による】

浦和市指定天然記念物　**カイノキ**

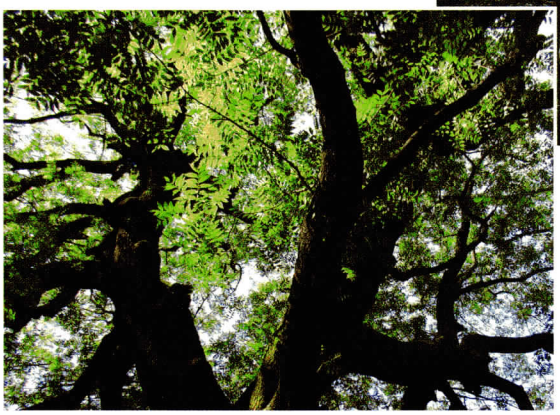
指定年月日　昭和四十八年四月十一日
目通り幹まわり1,69m、根まわり1,85m、高さ約16m、枝張り
北へ8,3m、東へ10,0m、南へ8,6m、西へ9,7m

カイノキ（楷樹）は、中国原産のウルシ科の落葉高木で、雌雄異株の樹木である。この木は、大正十四年に旧制浦和高等学校の漢文科の教授が中国出向のとき、曲阜の孔子廟を訪れ、墓上を覆っている大楷樹の種子を数個拾い、帰国後、播種、育苗し、記念に生物教室に寄贈し、教室前の植物園内に植え、以後大切に育ててきたものです。現在、なお、順調な発育を続けています。

わが国にカイノキが入ったのは、白沢保美林学博士が大正四年に中国に出張の折、孔子廟で拾った種子を持ち帰り、播種、育苗し、儒教にゆかりのある場所に配布したのが最初で、それらは、岡山県の閑谷学校（特別史跡）などに現存していますが、わが国では、ごくまれにしか見ることのできない珍らしい樹木です。

この土地は、大正十年に浦和高等学校（旧制）が置かれたところであり、このカイノキは、同校の歴史を語る記念樹としても貴重な樹木と言えます。

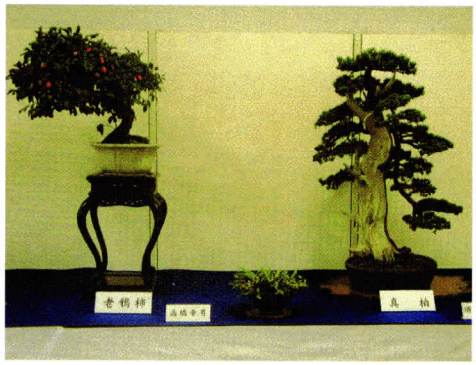
浦和市教育委員会
昭和六十三年二月



川口緑化センターの主なイベント（結果報告）

☆ミニ庭園展示会　平成14年10月12日（土）～14（祝）

第55回秋の安行植木まつりと同時開催で、緑化団体の協力を得て、ミニ庭園の展示会を行いました。ガーデニングが定着してきた昨今、好みの植物・園芸資材を駆使して楽しむ方が多くなりました。会場では、熱心に見入る来場者の姿がとても印象的でした。150cm×90cmという畳一枚に満たないスペースでも、充分楽しめることが理解されたのではないでしょうか。



☆秋の盆栽展　平成14年10月18日（金）～20（日）

盆栽は、深山幽谷の自然美を追求したワビ・サビの発露といえるでしょう。

庭と同様、盆栽も見る人によって感じ方が様々。来場者と樹との対話の静かな時間を演出していました。

☆観葉植物の展示販売　平成14年10月26日（土）～27（日）

室内のインテリアとして人気の高い“観葉植物の寄せ植え”展示と販売を行いました。

新しい観葉植物が毎年のようにお目見えする中で、寄せ植えの醍醐味（たいごみ）である植物の取り合わせを、プロが種々工夫して作り上げた展示品は、来場者にとって、勉強の場にもなりました。

☆オモト名作展　平成14年11月9日（土）～10（日）

日本が誇れる古典園芸植物の一つです。展示と販売を行いました。

手塩にかけて栽培した逸品というに相応しい銘品揃いが、大小180点余り展示されました。

おもとの葉の変化性（葉芸）には驚嘆（きょうたん）するばかり。来場者はこの素晴らしい世界をのぞいて、園芸の幅・奥深さを感じ取ったことでしょう。

植物・園芸用語解説　シリーズ12

さくらそうについて（その1）

★サクラソウ：サクラソウ科　Primula sieboldii E. Morrenの学名で呼ばれます。
北海道南部、本州、九州、更に朝鮮、中国、シベリアに分布します。
さいたま市を流れる荒川にサクラソウの群生地「田島ヶ原」があります。昭和27年(1952)、国の特別天然記念物に指定されました。毎年４月20日前後、さながらピンクのジュウタンを敷きつめたような景観は、見事の一語に尽きます。
江戸時代に多数の園芸品種が作出されました。現在、300を越える品種があり、日本が誇る園芸植物の一つです。

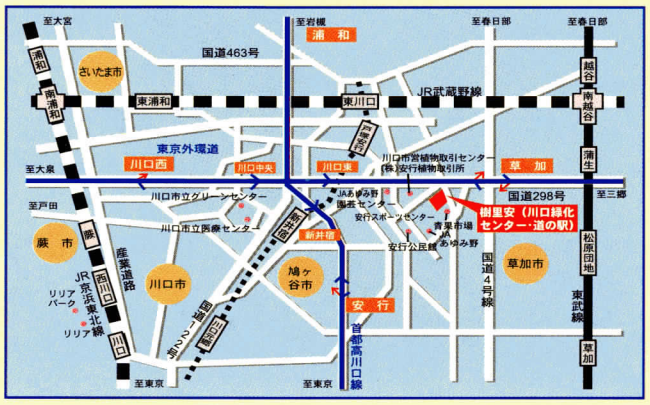
★芽　分　け：サクラソウ繁殖法の一つです。12月から２月にかけてが適期です。
丹精込めて栽培した鉢植えの鉢を逆さにして、用土をスッポリ取りだし、土をほぐしていくと、中から沢山の芽（冬芽）を付けた根（根茎）がヒモ状の細根をいっぱい付けて出てきます。この瞬間がサクラソウ作りの醍醐味かもしれません。上手に栽培すると、一株に大中小５～８位の芽が付いています。大きい芽（一番芽、二番芽）には沢山の細根を、小さい芽には４～５本の細根が付くように芽を分けます。（根茎から芽を欠き取る）

★根　伏　せ：サクラソウ繁殖法の一つです。一般的にはあまり行われていません。
根茎に付いている細根を１本ずつ取って、砂を入れた浅鉢（平鉢）に１本ずつ横に置き、その上から細根が隠れる程度（５mm位）に砂をかぶせます。その後は、表面が乾いてきたら水を与え（鉢底から吸わせる＝底水、底面潅水）、春まで続けると、ある日可愛らしい芽が顔を出します。

★根　　茎：サクラソウの茎に相当する部分です。茎は地上を立ち上がらず、地面を這うように伸びて行きます。この性質がサクラソウを栽培するときの大きな問題につながります。根茎は一年で枯れます。根茎の先端に新しい根茎と冬芽を作ります。

★肉　　芽：五月連休も終わる頃、サクラソウの可憐な花も終焉を迎えます。丁度その頃、葉の付け根の地表面すれすれのところに肌色をしたかたまりが見えます。この部分を肉芽といいます。この肉芽が11月下旬までの長期間をかけて、根茎と冬芽（大きい芽は花芽）を育む基になる部分です。

★増　し　土：地表に現れた肉芽が順調に生育するためには、1～1.5cmの用土をかぶせます。これを増し土といいます。増し土を行わないと肉芽は空気中にさらされてひからび状態になり、新しい根茎、冬芽は望むべくもありません。サクラソウ作りの中で最も大切な作業です。



ジュリアン
樹里安
川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」
発行日：平成15年１月１日
発　行：財団法人　川口緑化センター
〒334-0058　川口市安行領家844-2
TEL.048-296-4021
ホームページ：http://www.sainet.or.jp/~jurian/

R40
古紙配合率40%再生紙を使用しています